

## 沖縄市漁協少年水産教室

水産海洋技術センター 米丸浩平

### 1. 目的

地域の子供たちに漁業体験や魚の調理、食事等を通して、地域の水産業に親しんでもらう事を目的とする。

今年度は所属漁業士からの要望を受け、沖縄市漁協にて、漁業士が講師役となり、地元小学生および父兄を対象に水産教室を行った。

### 2. 方法と結果

沖縄市漁協が中心となり、所属漁業士および沖縄県漁協女性部連合会（女性連）会長による水産教室を実施した。今年度が初めての取組ということで、沖縄市立美東小学校3年生11名およびその父兄を対象に小規模な開催とした。

はじめにセリ市場にて、女性連新立会長による解体ショーが行われ、金城豊青年漁業士が釣り上げたキハダマグロ、神山清英指導漁業士が漁獲したソデイカが解体された。その後、解体されたブロックを使って子ども達による刺身切り体験とセリの見学が行われた。

その後、市産業交流センターへ移動し、

水産の副読本「お魚BOOK」を配付し沖縄の水産業について説明した後、井口勝指導漁業士より自らが行う漁業やマグロ・カツオ釣りの仕掛け等についての説明と、カツオ釣り用の疑似餌（タコベイト）を利用したストラップ作りを行った。

同漁協では、地域の小学校に対し漁協職員が積極的に水産教育を行っており、今回の子供たちもマグロが4種類いることや、生鮮マグロの水揚げが日本一であることなど、以前学んだ知識を披露していた。参加した子供や保護者からは、またやってほしいとの声があり、漁業士らは8月に再度水産教室を行いたいと意気込んでいた。

### 3. 考察

同漁協は、地域への水産教育を精力的に行っており、子供たちの漁業への興味や知識も想像以上に持っているため、漁業者とも連携し、継続的に魚捌きや実際の漁業体験を行っていくことで、魚食普及や漁業後継者の確保に相乗効果が期待できる。

次年度も水産教室を開催したいと意気込んでいるため、引き続き支援していきたい。



新立会長による解体ショー 漁業士によるストラップ作り

みんなで記念撮影